

下線中で `\ce` を直接使うと、地の文で使った場合と異なり、前後の和文との間に空白が入らず詰まってしまう。また、下付き添字と下線が接触してしまいます。

(正) ここで溶液に  $\text{NH}_3$  を通じると、

(誤) ここで溶液に $\text{NH}_3$ を通じると、 ← 生の `\ce` を使うと詰まりすぎる。また、下線位置を調整しないと下付き添字と下線が接触する。

下付き添字と下線との接触を防ぐためには、下線系命令のオプションとして `[position=-4.5pt]` を付け加えます。`\丸数字下線` などの命令でもこのオプションは有効です。また、前後の和文との間に空白を加えるためには、`\ce` の代わりに `\uce` (underlined ce の意) を用います。

(正) ここで溶液に  $\text{NH}_3$  を通じると、

(正) ここで溶液に  $\text{NH}_3$  を通じると、 ← `\uce` を使うと前後に適切なスペースが空く

ただし、「**下線中では常に `\ce` の代わりに `\uce` を使えばよい**」という単純な話でもありません。次のようなケースですと、`\uce` を使うと余分なスペースが空いてしまいます。こういうときは、`\ce` を使って、空けるべき部分に手動で半角スペースを空けます。

▶ 例外①：`\ce` が下線内の先頭にある場合は `\uce` は不適切

(正) ここで  $\text{NH}_3$  を通じると、

(誤) ここで  $\text{NH}_3$  を通じると、 ← 生の `\ce` を使うと右が詰まりすぎる

(誤) ここで  $\text{NH}_3$  を通じると、 ← `\uce` を使うと左まで空いてしまう

(正) ここで  $\text{NH}_3$  を通じると、 ← `\ce` を使った上で、右だけ手動でスペースを空けるのが適切

▶ 例外②：`\ce` が下線内の末尾にある場合は `\uce` は不適切

(正) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$ 、 $\text{PbCl}_2$  に対して、

(誤) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$ 、 $\text{PbCl}_2$  に対して、 ← 生の `\ce` を使うと左が詰まりすぎる

(誤) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$ 、 $\text{PbCl}_2$  に対して、 ← `\uce` を使うと右まで空いてしまう

(正) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$ 、 $\text{PbCl}_2$  に対して、 ←  $\text{AgCl}$  は `\ce` を使った上で、左だけ手動でスペースを空けるのが適切

▶ 例外③：`\ce` が下線内の末尾かつ直後が和文文字の場合は下線の外側にもスペースが必要

(正) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$  と  $\text{PbCl}_2$  に対して、

(誤) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$  と  $\text{PbCl}_2$  に対して、 ← 生の `\ce` を使うと左が詰まりすぎる

(誤) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$  と  $\text{PbCl}_2$  に対して、 ← `\uce` を使うと右まで空いてしまう

(誤) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$  と  $\text{PbCl}_2$  に対して、 ←  $\text{AgCl}$  は `\ce` を使った上で、左だけ手動でスペースを空けるだけでは、右が詰まりすぎる

(正) ここで、沈殿した  $\text{AgCl}$  と  $\text{PbCl}_2$  に対して、 ←  $\text{AgCl}$  は `\ce` を使った上で、左だけ手動でスペースを空け、かつ下線後にもスペースを挿入して調整

▶ 例外④：下線内の約物直前の場合は `\uce` は不適切

(正) ここで、沈殿中には  $\text{AgCl}$ 、溶液中には  $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。

(誤) ここで、沈殿中には  $\text{AgCl}$ 、溶液中には  $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← 生の `\ce` を使うと和文との接触部が詰まりすぎる

(誤) ここで、沈殿中には  $\text{AgCl}$ 、溶液中には  $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← 全て `\uce` を使うと  $\text{AgCl}$  の後が空きすぎる

(正) ここで、沈殿中には  $\text{AgCl}$ 、溶液中には  $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ←  $\text{AgCl}$  は `\ce` を使った上で、左だけ手動でスペースを空けるのが適切

特に、このケースで `\uce` を使ってしまうと、禁則処理が効かないのでひどい結果になります。

ここで、 <u>沈殿中には <math>\text{AgCl}</math></u> <u>、溶液中には <math>\text{Cu}^{2+}</math> が含ま</u> <u>れる。そこで……</u>	← 下線中の約物直前で <code>\uce</code> を使ってしまった場合
--	--

▶ 例外⑤：下線内の約物直後の場合は `\uce` は不適切

(正) この溶液中には、 $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。

(誤) この溶液中には、 $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← 生の `\ce` を使うと和文との接触部が詰まりすぎる

(誤) この溶液中には、 $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← `\uce` を使うと左まで空いてしまう

(正) この溶液中には、 $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← `\ce` を使った上で、右だけ手動でスペースを空けるのが適切

(優) この溶液中には、 $\text{Cu}^{2+}$  が含まれる。 ← `\ce` を使った上で、右だけ手動で `\hspace{\xkanjiskip}` を入れるのが最も正しい